

止めよう 再処理！ 共同行動ニュース



1月14日～15日にかけて、パシフィコ横浜で開催された「脱原発世界会議」には両日合わせて、1万人を超える来場者を得て開催されました。(写真：レイバーネットHP)

labornetjp.org/

■2012年1月25日発行 「再処理とめたい！首都圏市民のつどい」
■〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館内 原水爆禁止日本国民会議気付
■TEL：03-5289-8224 ■E-Mail：list@gensuikin.org

六ヶ所再処理工場の試験再開反対！ プルトニウム利用政策推進に大義はない

見直される原子力政策

日本原燃（株）は、2008年12月に事故を起こして以来中断していた六ヶ所再処理工場の高レベル放射性廃棄物ガラス固化施設に係わるアクティブ試験再開に向けて、1月4日、ガラス溶融炉の熱上げ作業を開始しました。1月下旬には試験が再開されようとしています。さらにMOX燃料工場の建設も今春から再開する意向を表明しました。このような動きに対して枝野幸男・経済産業大臣は、「国が承認する、しないという段階ではない」として、試験再開になんら注文をつけることなく、事実上黙認しています。

しかし福島原発事故によって、エネルギー環境会議や新原子力政策大綱策定会議などで原子力政策そのものが見直されようとする中で、六ヶ所再処理工場を含めた核燃料サイクル路線の見直しも議論されています。(後述)。核燃料サイクルの中核を担う高速増殖炉の原型炉である「もんじゅ」の予算も大幅に減額され、次年度での試験再開はできなくなり、高速増殖炉開発そのものが実質的に困難となりつつあります。その中で六ヶ所再処理工場は存在意義そのものが問われています。今回の試験再開は、既成事実の積み上げをはかることによって、プルトニウム利用政策の見直し議論

の広がりを抑えようとするものです。

そもそも、これまで失敗し続けた高レベル放射性廃棄物のガラス固化ができるのかどうかも問題です。溶融炉の底に「白金族」がたまり、何度も失敗を重ねてきました。安定的に作動することも重要ですが、これまでの実績を見れば、甚だ疑問です。「万全の対策」として臨んだこれまでの試験で、ことごとく失敗を繰り返しています。



東京でほぼ毎月開催されている「再処理とめたい！定例デモ」
(2012年1月22日)

破たんするプルトニウム利用政策

六ヶ所再処理工場が停止していた3年の間に、原子力をめぐる状況は大きく変わりました。昨年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、福島第一原発では、水素爆発や大量の放射能を放出す

るなど、日本の原発事故史上最悪の事故を引き起こしました。さらに地震により女川原発、東海原発、六ヶ所再処理工場なども緊急停止や電源喪失など「あわや」という状態を招いていました。各地の原発も津波や耐震の見直し、避難区域の拡大など、これまでにない情勢の変化がありました。

さらに核燃料サイクルを巡っては、もんじゅの研究開発の見通しがさらに悪化し、頼みのプルサーマル計画も「2015年までに16基～18基の原発で実施」という計画は、もはや「幻の計画」となっています。プルトニウム利用計画そのものが「破たん」しています。その現実をしっかりと直視する必要があります。



再処理からの撤退を

六ヶ所再処理工場を動かすことによって、これ以上プルトニウムを生産し続けることに何の意味があるのでしょうか。国際公約として余剰プルトニウムを持たないというこれまでの立場との矛盾が拡大するばかりです。国民に納得できる説明もないまま見切り発車することは、ますます日本の原子力政策に対する不信を高めるものです。そして、日本原燃の川井吉彦社長の「国の議論と試験は別問題」との発言には、原子力推進派の傲慢さが表れていますし、今回の枝野経済産業大臣の傍観者的な態度も問題です。

さらに六ヶ所再処理工場を支えている最大のスポンサーは、福島第一原発事故を起こした東京電力です。全体の4割とも言われています。その最大のスポンサーは、いま福島第一原発事故の賠償

さえままならない状態で、「東電解体」とまでいわれています。今後も安定して六ヶ所再処理工場を支えていけるかどうかはまったくもって不透明です。不安定な経営状況を抱えて六ヶ所再処理工場が今後も「商業工場」としてやっていけるのか。その答えは明らかです。

現在、原子力委員会の中の「原子力発電・核燃料サイクル技術等検討委員会」（鈴木達治郎座長）の中でも核燃料サイクルの将来の方向性に関する検討を開始しました。（1月11日）。その中で、第1ステップで意義や目的、第2ステップで原子力の依存度を下げた場合の影響、第3ステップで方向性をめぐる議論がなされます。明らかに、現状ではこれまでの方向性が修正、ないしは転換されようとしています。

六ヶ所再処理工場をめぐる状況の変化を見れば、再処理再開の大義などありません。むしろ国民的合意なき再処理政策を押し進めるための試験再開は許せません。

1997年に完成する予定だった再処理工場は、15年経った今でも完成していない欠陥工場です。これ以上「ムリ・ムダ・キケン」な再処理工場の建設に、貴重な私たちの電力料金をつぎ込んではありません。六ヶ所再処理工場の建設中止を、今後も強く求めていきましょう。

コラム

収束宣言をすり替える？

第180回通常国会が、今月24日に開会しました。その中の野田佳彦首相による施政方針演説では、「東日本大震災からの復興」「原発事故との闘い」「日本経済の再生」の三つを重要課題としてあげられました。その中で昨年12月16日に大々的に発表した福島原発事故の「収束宣言」を、こっそり修正し「ステップ2完了は、廃炉に至る長い工程の一里塚にすぎない」とトーンダウンさせました。本誌前号でも政府の収束宣言のまやかしを訴えましたが、今回、自ら自慢の「収束宣言」すら持ち出せず、「ステップ2の完了」と発言せざるを得なかったことは、またしても政府に対する信頼を失わせるものとなりました。事故を過小に見せ、実績をなんとか見せたいとする政府のパフォーマンスに、あらためてあきれざるばかりです。国民を欺くパフォーマンスよりも、真実を明らかにすることがいまの政府や電力会社に求められているはずで、「収束宣言」はしっかり撤回していただきたいと思います。

私たち「再処理とめたい！首都圏市民のつどい」は、毎月第4水曜日に経済産業省別館前でのニュース配布と要請書の提出などの定例行動を2004年12月から続けています。

最近の新聞記事から

◆社説：核燃サイクル―事業者任せはおかしい（1月10日・朝日）

全国の原発から出る使用済み核燃料を再処理する工場（青森県六ヶ所村）が、今月中旬にも試験運転を再開する。

青森県の三村申吾知事が昨年末、県内の原子力施設の安全対策を了承したのを受け、再処理の事業主体である日本原燃が運転に踏み切る。

これは、おかしい。

政府は福島第一原発の事故を受け、再処理でプルトニウムを取り出し、再利用する核燃料サイクル事業も見直す方針だ。

原子力委員会はすべての使用済み燃料を再利用するコストが、再処理せずに地中に埋める「直接処分」の2倍になるとの試算もまとめている。

こうしたデータをもとに、再処理問題の本格的な議論を始めようとする矢先の再開は、事業継続の既成事実を積み上げる意図があるとしか思えない。

再処理工場での試験運転は、06年3月から始めた。しかし、高レベル放射性廃液を高温炉でガラスと混ぜて固める工程がうまくいかず、08年に中断する。11年3月の再開直前、福島で事故が起き、止まっていた。

青森県の検証委員会は、電源車の設置など、電源を喪失した際の対策を有効だと評価した。報告書は「再処理施設は原子炉と違い、常温・常圧の環境下で化学処理が行われる」などと、原発との違いを強調している。

原発との違い自体はその通りだ。地元の六ヶ所村が再開を求めてきた事情もある。

だが、福島で原発事故が迫っているのは、「安全神話と低コスト幻想」に基づいた原子力事業全体の見直しである。

私たちは「原発ゼロ社会」に向けた道筋を提言してきた。原子炉の寿命を40年とする政府の法改正案は、その線に沿うものとして評価する。こうして脱原発を進めていけば、核燃サイクルは根本から崩れる。

一定程度の原発を維持するにしても、再処理事業の妥当性はすでに大きく揺らいでいる。核燃サイクルの究極の目的である高速増殖炉にいたっては、巨費を投じた原型炉「もんじゅ」がほとんど稼働せず、もはや実用化は夢物語である。

腑（ふ）に落ちないのは、政府の対応だ。原子力行政の根幹にかかわる話のはずなのに、試験運転の再開は「国が承認する、しないという段階ではない」（枝野経済産業相）という。

日本原燃は、再処理後にプルトニウム混合酸化物（MOX）燃料をつくる工場の建設も再開する予定だ。

こんな事業者任せの見切り発車を認めてはいけない。

もんじゅの実用化は「夢物語」。プルトニウム利用政策路線は破たんしていることは誰が見ても明らか。それでもプルトニウムを作り続ける理由は、日本が常に潜在的な核開発技術力を持つということでしょうか。ヒロシマ・ナガサキを経験した私たちは、それでも核技術が欲しいのでしょうか。誰に向かってそれを使うのでしょうか。東北アジアの平和と安定のためには、むしろ障害になるだけです。プルトニウム生産は、いらぬ不信を拡大するものです。

♪ 今後の集会や行動のご案内

■ 全国一斉！ さようなら原発 1000 万人アクション

東日本大震災・福島第一原発事故から一年目の1ヵ月前にあたる2月11日前後に、各地で一斉アクションが開催されます。

【2月11日】

● 2.11 全国一斉！ さようなら原発 1000 万人アクション

時間：13：30～

会場：東京・代々木公園イベント広場B地区、ケヤキ広場（JR「原宿駅」地下鉄「代々木公園駅」）

内容：13：00～コンサート：the JUMPS、13：30～集会（呼びかけ人スピーチ：大江健三郎さん、落合恵子さん、発言：藤波心さん／タレント、山本太郎さん／俳優、

福島からの報告：永山信義さん（福島県平和フォーラム）、14：15～終了、14：30～パレード出発
問い合わせ：事務局（TEL03-5289-8224／原水禁）

● 全国一斉 さようなら原発 1000 万人アクション in 北信越

時間：14：00～16：00 新潟県上越市「ユートピアくびき希望館」

【2月12日】

● さようなら原発 1000 万人アクション 東海ブロック集会

時間：13：30～ 静岡市「常盤公園」（デモあり）

● さようなら島根原発大集会 時間：13：30～

松江市「総合体育館」（パレードあり）

【2月18日】

● 脱原発四国集会

時間：13：30～ 松山市「愛媛県男女共同参画センター」

● さようなら原発北海道集会

時間：13：30～ 札幌市「かでる 2.7 大ホール」（デモあり）

【2月26日】

● さようなら原発 九州総決起集会

時間：13：30～ 佐賀市「どんどんの森」（デモあり）

■ 福島県民集会

日時：3/11（日）13：00～ 会場：福島県郡山市・開成山公園（郡山市役所横）

内容：集会、パレード

主催：福島県民集会実行委員会

■ さようなら原発 1000 万人署名集約集会

日時：3/24（土）13：30～

会場：東京・日比谷野外大音楽堂（千代田区日比谷公園1-3）（地下鉄「霞ヶ関駅」「日比谷駅」）

内容：集会、デモ・パレード

● ホームページもご覧ください sayonara-nukes.org/または、「さようなら原発」と検索